西　尾　市
学　生　議　会

令和５年８月２３日　午後２時から午後４時３０分まで

西尾市役所　議場

議長／西尾中学校　手島結萌

換気効率を高めるため、開会後は扉を閉めて実施しますので、ご理解くださるようお願いします。

それでは、開会までしばらくお待ちください。

議長／西尾中学校　手島結萌

皆さん、こんにちは。本日、前半の議長職を務めさせていただく西尾中学校の手島結萌です。よろしくお願いします。

ただいまから西尾市学生議会を開会します。

初めに、中村市長から挨拶があります。

市長挨拶

市長／中村　健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村　健です。

10名の学生議員の皆さんには、今年度の学生議会にご参加いただき、本当にありがとうございます。

昨年は、僕自身が学生議会のときに新型コロナウイルス感染症になってしまい、オンラインでの参加となってしまいましたけれども、５類に移行して、社会、経済活動も平時に戻ったということで、こうして学生議会を開催できますことを非常に嬉しく思います。

今日ご参加いただく議員の皆さんは、中学３年生ということですので、14歳か15歳だと思います。まだ、皆さんは選挙権がないので、なかなか選挙の際に、市政に関する自分の思いを託すということが年齢的にできないと思います。市職員の中でも10代の職員は非常に人数が限られていますので、日々の仕事の中で、中学生の皆さんや10代の皆さんが、何を考えていて、西尾市に対して何を期待しているのかということを、なかなか肌で感じる機会が少ないというのが正直なところです。

1皆さんのような若い世代の方の感覚、感性というものは、西尾市の将来の発展に大きくつながるチャンスであったり、ヒントがたくさん隠れていると僕は思っています。だからこそ、しっかりと若者の声をお聴きし、それを西尾市のまちづくりに反映させていきたいという強い思いを持って、学生議会を開催させていただいております。

無理に大人みたいなことをやろうという必要はなく、日頃の生活の中や、今回、学生議会に参加する中で、ちょっと疑問に思ったことなど、できるだけ生の声をこの場で出してもらえると、よりよい学生議会になるのかなと思います。緊張しないでと言っても緊張してしまう空気だと思いますが、なるべく肩の力を抜きながら、皆さんの意見を堂々と発表してもらえると嬉しく思いますので、どうぞよろしくお願いします。

議長／西尾中学校　手島結萌

これより学生議会の質問を行います。質問通告者は幡豆中学校、三浦彩未議員、東部中学校、小林杏奈議員、一色中学校、大岡優生議員、鶴城中学校、浅井若菜議員、寺津中学校、犬塚涼介議員、福地中学校、青山　杏議員、平坂中学校、吉川瑞規議員、佐久島しおさい学校、加藤日和議員、吉良中学校、瀬川はな議員、私、西尾中学校、手島結萌、以

上の10名です。質問の順番は、お手元に配付しました質問通告書一覧にある発言の順番のとおりです。

順次、発言を許可します。最初の質問者、幡豆中学校、三浦彩未議員。

１番／幡豆中学校　三浦彩未議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「私たちのにしがま線」です。

私たち、幡豆中学校の生徒は、普段から名鉄西尾、蒲郡線、通称「にしがま線」をよく利用しています。友達と遊びに行くとき、祖父母に会いに行くときなど、「にしがま線」は私たちの生活になくてはならないものです。そんな大切な「にしがま線」ですが、近年廃線の危機の路線となっています。その理由は、西尾駅から蒲郡駅までの区間は利用者が少なく、年間７億8,000万円もの赤字が続いているからだそうです。「にしがま線」が廃線になると、私たちの今後の移動手段はどうなってしまうのかと大きな不安を感じます。今のところは、令和７年度までの存続は確定していますが、その後はどうなるのでしょうか。

私たちは来年度高校へ進学し、多くの人が登下校で「にしがま線」を利用する予定です。また、高校生になれば今よりも行動範囲が広がり、市外へ遊びに行ったり、部活動の試合に参加するときに利用したりすると思います。「にしがま線」が廃止されれば、自転車で遠くまで行けない小学生や、自動車の運転をしない地域の方々の行動範囲も限られてしまいます。

そこで質問します。

赤字対策として、「にしがま線」を利用する人の年代別の割合や、時間帯ごとの利用者数を調べ、その結果により利用者が少ない時間帯の車両数を減らしたり、運行を取りやめたりしてはどうですか。

市民部長／小林明子

ご指摘のとおり「にしがま線」を利用する人の年代別の割合や、時間帯ごとの利用者数を調べ、路線の実態を明らかにすることは、「にしがま線」の持続可能な運行を検討する上で大変重要な取り組みであると認識しております。

なお、コストの削減につながる効率的な運行を行うことは、これまでに名古屋鉄道において実施しております。現状以上に車両数を減らしたり運行を取りやめたりすることは、赤字対策としての選択肢の一つではある一方で、路線としてのサービス、利便性の低下につながり一層の利用者減少を引き起こし、更なる収支の悪化を招くおそれがあることから有効とは考えていません。

市といたしましては、路線の存続のためにまちづくりと一体となった取り組みを進め、地域の皆さまの日常的な鉄道利用、また、観光客などの恒常的な鉄道利用につながるような施策を検討し、取り組んでまいりたいと考えております。市民一人一人が、三浦議員と同じように「にしがま線」の存続問題について関心を持つことが重要です。今後も市として、実態調査や分析を行っていきたいと思います。

１番／幡豆中学校　三浦彩未議員

ありがとうございました。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

幡豆中学校では、毎年「にしがま線夢シーサイドウォーク」という「にしがま線」を使って移動し、海岸線を歩く行事を行っています。廃線の危機であるという意識を広く共有するため、市内の中学生を対象にイベントを行ってみれはどうですか。

市民部長／小林明子

幡豆中学校では、毎年名鉄存続のための学校行事を実施し、生徒の皆さんが主体的に、「にしがま線」存続に向けてＰＲ活動に取り組んでいただいておりますことを、大変ありがとうございます。

市といたしましても、鉄道の有り無しは、子供たちの選択、進路選択に大きく影響を及ぼすものであり、「にしがま線」は存続していかなければならないと考えております。本市では、蒲郡市や西尾市などで組織する名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会において、「にしがまシーサイドウォーク」というウォーキングイベントを毎年実施しております。

このイベントは、年齢に関係なくご参加いただけるため、中学生同士の参加も可能となっております。市内中学生のみを対象にしたイベントを、市が主催するということは今のところ考えてはおりませんが、進路によっては、どの中学校の生徒の皆さんも「にしがま線」を利用する可能性がありますので、市内の中学生と交流を兼ねた行事を、中学生自らの手でつくり上げていくことも考えてもらえると嬉しく思います。

１番／幡豆中学校　三浦彩未議員

ありがとうございました。

続きまして、３つ目の質問に移ります。

「にしがま線」沿線に魅力的な施設を誘致するとともに、スタンプラリーなどのイベントを実施して、「にしがま線」を利用した人への特典を設けてみてはどうですか。

市民部長／小林明子

「にしがま線」沿線に、新たな誘客施設を誘致することは地域の活性化にも「にしがま線」の利用促進にもつながり、観光客を呼び込む一つの手段になると考えます。しかしながら、事業者にとっても利用者の見込みから経営が成り立つか、採算が取れる施設や立地でなければなりません。新たな施設を誘致するのも一つの考えではありますが、実現が難しい現状では、こどもの国など今ある施設や資源を最大限に生かして取り組んでいきます。

スタンプラリーなどのイベントについては、蒲郡市・名古屋鉄道と協力して、名鉄電車フリーきっぷを利用したイベントを数年前から実施しています。沿線の店舗とタイアップしているほか、ラリーをクリアした方には、地元特産品をプレゼントするなどの特典を用意してみました。

また、昨年度、新たな取り組みとして、「駅メモ」という位置情報連動型ゲームとコラボして、「にしがま線」の各駅と沿線の観光スポットを巡るデジタルスタンプラリーを

実施し、全国から集客を得ることをできました。
今後も「にしがま線」の利用促進に取り組んでいきたいと考えております。

１番／幡豆中学校　三浦彩未議員
ありがとうございました。
今回、この学生議会に参加することで、中学生である私も西尾市民の一人として西尾市の未来について考え、何ができるのかを考える機会をいただき、貴重と体験となりました。そして、今回質問させていただき、シーサイドウォークというＰＲ活動やスタンプラリーなどのイベントを実施していることを知りました。こうした活動に、中学生である私たちが積極的に参加し、盛り上げていくことが大切だと感じました。
１２月に実施する「にしがま線夢シーサードウォーク」では、これまで以上に「にしがま線」の大切さについて、全校生徒で考えていく行事にしていきたいです。
以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／西尾中学校　手島結萌
幡豆中学校、三浦彩未議員の質問が終わりました。
次に、２番目の質問者、東部中学校、小林杏奈議員。

２番／東部中学校　小林杏奈
はい。それでは、通告に従い、質問します。
私のテーマは「全ての地域に安全を」です。
最近、私が気になっていることは「通学路に潜む危険」です。安全なはずの通学路で、子供たちが巻き込まれる交通事故は、全国各地であとを絶ちません。愛知県の交通事故死者数は、平成27年以降減少傾向にあり、令和元年に16年連続ワースト１位を脱却しました。しかし、令和３年を除き全国ワースト２位と依然と高い順位が続いており、早急な対応が求めれています。
東部中学校においても、昨年度、東部中学生と車との接触事故が発生しました。登下校中の事故を防止するため、個々に交通安全についての意識を高めるため、学校で繰り返し話があります。
今年５月には、通学路として使用している道路で、車同士の衝突事故がありました。東部中学校区には、見通しの悪い場所がいくつかあります。「止まれ」や「一時停止」の標識がある場所やカーブミラーが設置されている場所は、見通しが悪くて事故の危険性が高いということ、見通しの悪い場所には、カーブミラーが必要だと思いますが、カーブミラーにも死角があるので、必ず目視による安全確認が必要だと思います。私が通る通学路には、見通しが悪くてもカーブミラーが設置されていないところがまだあるので、大変危険だと感じています。実際に私は、カーブミラーのない見通しの悪い場所を自転車でとおるとき、車が来ないか身を乗り出して確認しようとして、危険な思いをしたことがありました。
西尾警察署が発表している交通事故発生状況を見ると、死者数は減少傾向ですが、未だ「交通事故死ゼロ」にはなっていません。交通事故につながる原因の一つとして、安全

不確認が挙げられます。私は、この原因には、カーブミラーが深く関わっていると考えました。

そこで、西尾市内での交通事故を減らすために、市内小中学生が交通事故にあった場所をまとめ、その場所を地図に印し、ヴェルサウォークやシャオなど、多くの人に見てもらえる商業施設に掲示したり、広報にしおに掲載したり、ＳＮＳを活用して情報発信するなど、広く市民に周知し、意識を高めてもらってはどうでしょうか。

また、同時に、交通事故が発生した場所には、何か原因があると思うので、カーブミラーを優先的に設置するなど交通安全対策を早急に進めてほしいと思います。

そこで質問します。

今までに市内小中学生が交通事故にあった場所をまとめ、市民に情報発信したことはありますか。

危機管理局長／簗瀬貴央

交通事故に関する情報発信につきましては、西尾市独自のものは行っておりません。しかし、西尾警察署が平成30年から令和５年までの５年間で発生した事故のうち、「歩行者」あるいは「自転車」が絡む事故が複数発生した場所を取りまとめ、小学校区ごとに交通安全マップを作成しホームページに掲載しております。こういったものが警察のホームページにアップされております。小学校校区ごとに、令和４年まで、平成30年から令和４年までのものが掲載されております。

したがいまして、市として交通安全マップが多くの市民にふれるようにするということは大変重要だと考えております。まず、西尾市のホームページからも確認できるように、リンクを貼ってまいります。

次に、小中学校などで実施している交通安全教室において、交通安全マップを用い児童生徒に事故が発生しやすい危険な交差点などをお知らせし、特に気をつけて通行していただくよう注意喚起をしてまいります。

また、危機管理課や各支所の窓口での配布、学校から家庭へ交通安全マップの情報を提供し、保護者を含め多くの市民に周知をしていくように考えております。

２番／東部中学校　小林杏奈

ありがとうございました。交通安全マップが、西尾市のホームページで見られるようになることで、より身近に交通安全について考えることができそうです。

続きまして、二つ目の質問に移ります。

小中学生と車との接触事故を減らすため、市内小中学生の交通事故情報を基に、カーブミラーを設置するなどの交通安全対策を実施しませんか。

建設部長／杉山泰弘

市では通学路の交通安全対策として、西尾市通学路交通安全プログラムを平成２７年度に策定し、以降、毎年、教育委員会、警察、道路管理者により、通学路の合同点検を行い、対策が必要と判断された箇所については安全対策を図るなど、交通事故を未然に防止する取り組みを行っています。

また、重大事故や繰り返し事故が発生した場所などについては、現場状況を確認し警察と調整のうえ、必要な安全対策を早急に講じるよう努めております。

カーブミラーにつきましては、建物や壁などを原因とした見通しの悪い交差点やカーブ箇所などの、目視確認が困難な場合に設置をしています。小林議員は、カーブミラーのない見通しの悪い場所で危険な思いをしたとのことでありますが、そういった場所についても設置を考える対象になると思います。しかし、狭い道から歩道のある広い道に出ようとするときに、カーブミラーを設置したことにより目視確認や一時停止をせずに自動車が交差点に進入し、広い道の歩道を通っている歩行者等を巻き込む重大事故の発生も考えられることから、設置については現場の状況を確認のうえ、慎重に判断をしております。

今後においても、交通事故情報や通学路交通安全プログラムなどにより対策が必要と判断される箇所については、カーブミラーの設置など効果的な安全対策を引き続き実施してまいります。

２番／東部中学校　小林杏奈

ありがとうございました。カーブミラーを設置することで、安全確認を怠ってしまう場合があると知り驚きました。カーブミラーが設置されているから大丈夫と思い込まず、車や歩行者と接触する可能性がある場所では、必ず目視で安全確認を行いたいです。

また、今回教えていただいたカーブミラーを設置したことにより、目視確認や一時停止をせずに自動車が交差点に進入し、広い道の歩道を通っている歩行者などを巻き込む重大事故が発生しているということを、学校の生徒会活動を通して情報を共有し、全校や地域の方の交通安全に対する意識を高めていきたいと思いました。

今後、事故の発生率や交通事故による死者数が減っていき、さらに安全な地域になるように私たちも交通事故防止について考えていきたいです。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／西尾中学校　手島結萌

東部中学校　小林杏奈議員の質問が終わりました。

次に、３番目の質問者、一色中学校　大岡優生議員。

３番／一色中学校　大岡優生

はい。それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「我が一色町を誇れる町に」です。

一色町の人々は、これまでも自分たちの地域を盛り上げようと、たくさんの人や企業が努力を重ねてきました。

施政方針には「一色さかな広場を中心に一色港エリアのにぎわいを創出」とあります。しかし、なかなかほかの地域の人には知ってもらえないのが現状です。僕は交通の不便さや、僕たち若い世代が、自分たちの町の魅力に目を向けられていないことに原因があると思いました。そこで、僕は、学生が自分たちの町についてもっと知り、それをほかの地域の人々にアピールする機会を設けることが必要だと考えました。

また、三河線の廃線によって、現在の一色町は、市の中心部から観光施設へのアクセ

スが悪く、公共交通を利用する観光客が訪れにくかったり、逆に一色町に住む高齢者や学生が、市の中心部へアクセスしにくかったりする現状があります。一色町へのアクセスをよりよいものとするべく、鉄道の再開や、現在の主な移動手段となる名鉄東部交通バスやいっちゃんバスの本数、または巡回ルートを増設する計画はありますか。

そこで質問します。

地域の魅力を広げていくため、学生と協力して、町の良さをアピールする規格を３つ提案します。

１つ目、一色地区の大提灯祭りの案内・説明ボランティアの募集。２つ目、旧幡豆郡校区の学生の茶摘み体験の機会を設ける。３つ目、各中学校区の学生のプレゼンによる地域の魅力発信です。これらの提案について、どのようにお考えでしょうか。

交流共創部長／石川孝次

一色地区の大提灯祭りの案内・説明ボランティアの募集について、お答えさせていただきます。

「三河一色大提灯まつり」は、昨年度解散されました「一色町歴史ガイドの会」の思いを引き継ぎ、今年度「三河一色大提灯ガイドの会」が発足され、大提灯まつりのガイドを行っていただくことになっております。

「ガイドの会」では、日頃から次世代への継承を目的として、一色中部小学校と一色南部小学校を訪問して、大提灯まつりの歴史についての講話を行うとともに、全ての方を対象にガイドを募集し、その育成に努められております。

この活動に、若い世代をはじめ多くの方にご参加いただくことが、地域の活力を広げていくことにつながると考えますので、「ガイドの会」には、一色中学校にもボランティア募集を働きかけていただくよう話をしてまいります。

また、大岡議員もぜひ、「ガイドの会」にご参加いただければと思います。

最後に、今年の「三河一色大提灯まつり」につきましては、今週末２６日、２７日に諏訪神社で開催されます。まずは、愛知県の有形民俗文化財にも指定されています大提灯の魅力を肌で感じていただきたいと思いますので、議員の皆さんはぜひ、お出かけいただきたいと思います。

教育部長／齋藤武雄

西尾市で行われている「学校茶摘み」は、小中学生を対象にした全国的にも珍しい伝統行事で、ことしで85年目を迎えました。勤労体験学習として、児童生徒らに勤労の尊さを伝え、西尾の地場産業を理解してもらう目的で毎年行われております。

地域の産業を理解するうえで、体験的活動は有意義であり、大岡議員のように、茶畑のない地区の児童生徒の皆さんでも「学校茶摘み」を体験することによって、西尾市の産業を理解したいという思いに対しましては大変うれしく思います。

茶摘み体験を行っていない旧幡豆郡校区の小中学校においても、えびせんべいの手焼き体験や、吉良温泉の宿泊施設での勤労体験、トンボロ干潟の清掃など特色ある体験学習が行われております。今後も各学校において、地域の良さを生かした、よりよい体験学習が工夫されるようにしていきたいと思っております。

なお、茶摘み体験につきましては、西尾市観光協会が一番茶茶摘み体験を開催しております。そちらを体験していただいたり、市が小中学校向けの食育講座を実施しております。その中には西尾の抹茶について学ぶ内容もございますので、そちらで西尾の抹茶について理解を深めていただけると幸いであります。

総合政策部長／西尾隆治

３つ目の提案についてご答弁申し上げます。３つ目の「各中学校区の学生のプレゼンによる地域の魅力発信」のご提案につきましては、若い世代の方々が、自分たちの暮らす地域に興味・関心を持つきっかけになるとともに、地域の魅力の再発見につながると考えております。

現在、市として新たにそういったプレゼンテーションの機会を設ける予定はありませんが、本日の学生議会のように、市の取り組みに積極的に参加していただきまして、まちづくりに対する意見や提案、そして、地域の魅力を伝えていただくということは、大変意義があることだと考えております。

現在、市では、Instagram や Facebook などのＳＮＳを活用して、市民と一緒に西尾市の魅力を伝えていく取り組みを行っております。このような取り組みを通じまして、西尾の魅力を自ら発信していただける市民を増やすとともに、市外に向けては、本市の知名度向上や西尾ファンの獲得、市内に向けては、西尾の魅力の再発見や地域に対する愛着を深めてもらうことを目指しているところでございます。

ぜひ、皆さんのような若い方々の力を貸していただき、若者らしい目線で今までにない西尾の魅力を広めていっていただきたいと考えております。

３番／一色中学校　大岡優生議員

ありがとうございました。

「三河一色大提灯ガイドの会」の方々をはじめとする、たくさんの方々が僕と同じように、自分たちの地域を盛り上げたいと思ってくださっていると知り、とてもうれしい気持ちでいっぱいです。また、これから市を盛り上げていくにあたって、鍵になってくるのは、やはりＳＮＳだと感じました。僕も、市長さんの Instagram は存じております。西尾市のイベントなどを上げていて、ほかの地域の方々に見てもらったときに、西尾市の魅力が伝わるとてもいいものがＳＮＳだと感じております。僕も、ＳＮＳを通じた市の活性化に取り組んでいきたいと思います。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

名鉄三河線は、平成16年に廃止されましたが、これから、鉄道の再開通や現在の主な移動手段となる名鉄東部交通バスや、いっちゃんバスの本数、または巡回ルートを増設する計画はありますか。

市民部長／小林明子

今後、高齢化がさらに進むことで自動車の運転免許を返納する高齢者がふえていくことや、通勤・通学の足を確保する意味でも、公共交通事業は、豊かな生活を送っていただくために大変重要な役割を担っていると考えております。その一方で、事業を継続してい

くためには一定の経費がかかるのも事実であり、どれだけのお金を使ってもよいというものでもありません。サービスの充実と経費の抑制をどう両立させながら、持続的な公共交通事業にしていくのかが大きな課題であるといえます。

ご質問のあった名鉄三河線については、利用者が少なく、採算性がないため廃線になっていることや、線路のあった土地は民間による宅地開発などが行われているため、再開は現実的に難しいと考えます。

また、名鉄東部交通バスについては、一色地区から市中心部への移動手段として、通勤や通学のほか佐久島への観光目的に、年間約13万人の方に利用されていますが、運行事業者に確認したところ、運転士が慢性的に不足していることや、現在の利用者数を考えると、運行本数やルートをふやす計画はないとの回答をいただいております。

市のコミュニティバスとして運行している「いっちゃんバス」については、令和４年度の利用者数は3,474人で、利用者一人当たり6,133円の経費がかかっており、残念ながら住民の足として機能しているとはいえない状況です。現在、地域住民の皆さまとともに、一色地区における移動手段について改めて検討を進めています。

公共交通のあり方については、あったらいいなではなく、運行継続可能な形としてどのような公共交通が必要なのか、大岡議員も一緒に考えてもらえるとうれしいです。

３番／一色中学校　大岡優生議員

ありがとうございました。運行継続可能かどうか考えることが、僕はまだできていなかったと思います。このことから、多くの人の意見を取り入れ、何かを始めること、また継続することの難しさを学びました。自分たちの身近な疑問・課題、そしてＳＮＳを使った市の活性化を図る取り組みについて、市の職員の方々だけではなく西尾市民として、僕も自分ごととして考えていきたいと思いました。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／西尾中学校　手島結萌

一色中学校　大岡優生議員の質問が終わりました。

次に、４番目の質問者、鶴城中学校　浅井若菜議員。

４番／鶴城中学校　浅井若菜議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「若い世代の居場所づくり」です。

私の１日の中心は、学校生活です。授業や部活動をとおして、先生や友達と楽しく過ごし、休日には友達や家族と出かけるなど毎日充実した生活を送ることができています。

一方、私が毎年楽しみにしていることは、友達と一緒に行く西尾祇園祭と米津川祭りです、西尾市は、西尾祇園祭をはじめ、様々な祭りやイベントが開催されています。最近では、市民主体でマルシェが行われるなど、少しずつまちが元気になっているように感じますが、市内で行われるイベントは大人向けやファミリー向けのものがほとんどで、中学生向けにはありません。

そこで、私は、中学生や高校生など若者向けのイベントの開催を提案します。

ふれあいセンターなどでは、高齢者向けの「スマホ講座」や「パソコン講座」があり、シニア生活をより楽しくアクティブにするためのきっかけづくりになっているそうです。高齢者向けの講座があるのならば、若い世代が自分の存在意識を認めらるような、現役の高校生や大学生主体の講座も開設してはどうでしょうか。今や情報発信に欠かせないＳＮＳ。現役の高校生や大学生が講師となり、ＳＮＳとは何かという基礎知識や活用方法を学び、気軽に情報発信できるような「動画編集講座」や「盛れる映える写真講座」などを開設してはどうでしょうか。

また、鶴城中学校では「中学祭」という企画が行われました。全校生徒が心をひとつに合わせて歌を歌うことで、お互いの気持ちが近くなる素晴らしい企画でした。この企画を、市内の全ての中学校を対象としたイベントにしてはどうでしょうか。

近年は、人と人との関係が薄くなり、学校以外での自分たちの居場所や遊ぶ場所、学ぶ場所も限られたものになっているように感じます。また、両親の共働きや、長時間労働で帰宅時間が遅くなるなど、子供が親との時間に恵まれないという課題もあります。そこで、子供が気軽に立ち寄れ、学校の休み時間のように過ごすことができる場所、安心して過ごせる居場所づくりを西尾市で積極的に進めてはどうかと考えます。そうすれば、学校に足が向かない生徒たちにも居場所を提供することができます。

そこで、質問します。

若い世代が自分の存在意義を認められ、まちの活性化に参加できるように、現役の高校生や大学生が講師となり、主体的に運営する「動画編集講座」や「盛れる映える写真講座」のようなものを開設しませんか。

教育部次長／鈴木貴之

現役の高校生や大学生が講師となる講座については、現在までのところ、主体的ではありませんが、「けん玉入門講座」の講師を大学生を含むクラブが務めたり、小学校高学年の児童がふるさと西尾の自然や文化を学ぶ「にしおワクワク体験塾」の企画や進行を大学生や高校生が担ったりすることは行っています。

教育委員会としましては、高校生や大学生でも、特定の技術や知識についてほかの人に教えることのできる能力を持っている方であれば、講座の講師登録をしていただき、その講座を開講していくことは可能だと考えております。そして、高校生や大学生が、ふれあいセンターなどの生涯学習施設の貸室を借りて、自主講座や勉強会などを開催することも可能です。

また、動画編集や写真撮影の講座ではありませんが、教育委員会が将来的に開講を計画しています e スポーツ体験講座については、その準備段階から e スポーツに興味のある高校生や大学生に主体的に関わっていただき、講師はもちろん若い世代にとって受講したいと思わせる講座を共に企画したり、その講座を起点に、まちの活性化につなげるアイディアを検討したりすることを計画していきたいと思います。

４番／鶴城中学校　浅井若菜議員

ありがとうございました。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

市内の中学生を対象に、音楽に限定せず、中学生が主体となり、企画・運営する「中学祭」を市が開催しませんか。

教育部長／齋藤武雄

学校は、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養うことを目標に、全校または学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くために、年間を通じてさまざまな学校行事に取り組んでいます。

現在、中学校では、体育大会や文化祭、定期テストに加え、地域の実情に合わせた特色ある行事が行われており、各校の年間計画は準備を含めて空いている期間がほとんどございません。市内統一で大きな行事を行うには、調整が難しい状況かと思われます。

今回、学校の枠を超えた「中学祭」という行事にチャレンジしたいという壮大な企画を考えてくださったことを頼もしく思います。

市内全中学校が一体となって、中学生全体で主体的に推進していくためには、中学校間の緊密な連携が不可欠となります。そこで、まずは生徒会等が中心となって他の中学校へ呼びかけ、「中学祭」の機運を高めていくことから始めることが現実的ではないでしょうか。鶴城中学校が起点となって、市内全中学校を巻き込むような活動が始まっていくことを期待いたします。

４番／鶴城中学校　浅井若菜議員

ありがとうございました。

続きまして、３つ目の質問に移ります。

誰もが気軽に立ち寄れ、安心して過ごせる居場所づくりを進めませんか。

副市長／山口瑠美子

浅井議員の言われる、学校でもなく家庭でもなく、安心してありのままの自分でいられる子供や、若者の居場所づくりというは、全国的に求められている課題の一つでもありますが、西尾市においては、これまで多様な居場所づくり力を注いで参りました。

ちなみに、居場所というのは建物の中で安心して利用できるハード的な居場所もあれば、人と人が気軽にコミュニケーションがとれる交流や相談の場としてのソフト的な居場所もあります。

はじめにハード的な居場所として、ふれあいセンター、公民館や図書館などに開館時間中は、いつでも誰でも使える学習スペースや学習室を用意しています。また、ことし６月には、皆さんもお好きな漫画の名作をそろえたリサイクル本の漫画文庫を米津ふれあいセンターなどに設置し、誰でも気軽に立ち寄り、好きな漫画を読むことができる空間をつくりました。

そして、ご利用いただいたこともあるかと思いますが、西尾駅にベンチやピアノなどを置いて「おいでっき」として、自由な発想で多目的に利用していただいています。

さらに、西尾幼稚園の西側、蒸気機関車のある西尾公園とテニスコートがある場所に、全世代の市民が集う多様な学びの交流の場として、まだちょっと先になりますが、９年度の完成を目指して多目的な複合施設の建設を進めています。ここには、幅広い年代の来訪

者がゆったりとくつろいだり、ワクワクする遊びを子供が体験できたり、そういう自由で開放的な居場所空間を設けることを計画をしています。

次に、ソフト的な居場所として、「コンパス」を中央ふれあいセンターに開設し、どんな小さな悩みでも電話やＬＩＮＥなどで気軽に相談を受けております。また、コンパスでは、孤立化している子供や若者のための交流の場として、軽運動やオンラインゲームやカラオケなどの行事を定期的に開催しています。

「居場所づくり」は、子供や若者のみならず、全ての年代の市民の皆さんにとっても必要なものでありますので、今後も市民の皆さんにとって居心地のいい西尾市にしていきたいと思います。

４番／鶴城中学校　浅井若菜議員

ありがとうございました。

以上で、質問は終わります。

西尾市で、開催または開催予定イベントを知ることができ、機会があればぜひ参加したいです。また、知ることが興味・関心を持つことにつながると思いました。私の知らないものがたくさんあったので、ぜひ学生がそのような情報を得やすい環境を作っていただけるとありがたいです。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／西尾中学校　手島結萌

鶴城中学校　浅井若菜議員の質問が終わりました。

次に、５番目の質問者、寺津中学校　犬塚涼介議員。

５番／寺津中学校　犬塚涼介議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「西尾市の観光について」です。

僕は西尾市で生まれ、15年間暮らしています。西尾市で過ごす中で、観光面をもっと活性化させたいと思い市の取り組みを調べてみると、さまざまな体験活動があることがわかりました。例えば、茶摘み、えびせんべいの手焼き、魚のさばき体験などです。

また、体験を行うことができるツアーもあります。例えば、「一色満喫！うなぎの食事と体験ツアー」「西尾の魅力発信観光ツアー」などは実際に体験してみたいと思いました。ただし、ツアーに参加するには5,000円から8,000円ほどの参加料がかかります。中学生の僕にとってはかなりの金額がかかるのと、ツアー開催日が限られているので参加することはできませんでした。

西尾市では公式ＬＩＮＥを用いてイベントの情報発信をしたり、観光スポットをめぐり、特産品を味わうツアーなどを企画することで、市内外の方に魅力を発信していることも分かりました。しかし、せっかく魅力的な発信しているのに、若い人にとってはかなりの金額がかかるのと、開催日時が限定されているので、気軽に楽しむことができないと思いました。そこで、僕は西尾市として、日常的に楽しむことができるアプリを配信することを提案します。

今、西尾市には防災やごみ分別のアプリや観光協会のスタンプラリーアプリはありますが、まち歩きできる観光アプリはありません。そこで、ポケモンＧＯのような位置情報ゲームアプリをつくり、観光スポットを巡って楽しむことができるようにしてはどうですか。さらに、このアプリでお店や史跡を巡るとクーポンなどを手に入れることができ、市内の店舗で使用できるようにしてはどうですか。

僕が住む寺津地区には、赤地蔵、大仏（おおぼとけ）、フレスカなどのテレビで紹介された場所や、地域に根ざしたお店がたくさんあります。また、枯木宮貝塚や寺津八幡社など、歴史を知る上で重要な史跡もあります。観光アプリで地元の寺津や西尾の魅力を市内の人々はもちろん、市外の方々にも楽しんでいただき、西尾市の魅力を広く発信することができれば観光デジタルトランスフォーメーションの取り組みにもつながると考えます。

そこで質問します。

今後、各種体験ツアーの回数を増やしたり、学生料金を設定するなど若い世代が参加しやすい工夫をしませんか。

交流共創部長／石川孝次

各種体験ツアーにつきましては、旅行登録があり、各種ツアーを企画する西尾市観光協会に確認したところ、食事や体験付きの少人数募集ツアーは一定の経費がかかることから、需要が見込めないと回数は増やせないとのことでした。

また、学生料金の設定につきましては、商品が赤字にならないようにするためには、割り引き分を大人料金に上乗せする必要があり、大人料金の商品が魅力のないものになってしまうことから、それも難しいとの回答でした。

一方で、佐久島クルーズツアーのように、多くの人数を募集するツアーの場合も、需要の見込みが回数増加の判断材料となってきますが、席に空きのある便などに学生料金を設定することは、より効果的な運用ができる可能性もあり、今後、佐久島クルーズツアーの最終便への学生料金の設定を検討していきたいとのことでした。

全国的に見ても若い世代の方は、ＳＮＳなどで知り得た情報をもとに個人旅行を楽しまれる傾向にありますが、今後も西尾市観光協会と連携して、若い人にも西尾を選んでもらえるようなツアーを企画するとともに、西尾の魅力が存分に伝わる効果的なＰＲに努めてまいります。

５番／寺津中学校　犬塚涼介議員

ありがとうございました。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

お店や史跡を巡るとクーポンがもらえるなど、多くの人が日常的に楽しむことができる、位置情報を利用した観光アプリ配信を行い、観光のデジタル化を進めてみませんか。

交流共創部長／石川孝次

デジタルスランプラリーを活用した取り組みとしましては、西尾市観光協会が行う「西尾かき氷」や、西三河の市町村で構成する「西三河広域観光推進協議会」が行う「家康公ゆかりの地　西三河ぐるっと歴史デジタルスタンプラリー」などがあります。どちら

も位置情報を利用したものではなく、現地でＱＲコードを読み取り、スタンプを集めるもので、集めたスタンプに応じて景品の当たる抽選に応募できるものです。

犬塚議員からご提案いただきました、ポケモンＧＯのような位置情報ゲームアプリにつきましては、独自に開発することは、その後の経費も含め莫大な費用が必要になること、また、多くの方にアプリをダウンロードしていただくことが簡単ではないことから、非常に難しいと考えます。

しかしながら、位置情報を利用した既存の観光アプリを使用しての取り組みは可能であると考えます。

実際、昨年度には、先ほど、一色中学校の大岡議員の質問でも答弁させていただきましたとおり、西尾市と蒲郡市、愛知こどもの国が連携し、位置情報連動型ゲーム「駅メモ」を活用したデジタルスタンプラリーイベントを開催しております。

これは、名鉄にしがま線の利用促進や周辺観光を目的に、にしがま線の13の駅や歴史公園、愛知こどもの国を対象スポットにして、コンプリート者はプレゼントがゲットできるものでした。

こういった位置情報を利用したアプリはほかにもあると思いますので、今後、イベント開催に向けて検討してまいります。

５番／寺津中学校　犬塚涼介議員

ありがとうございました。

ツアーの体験回数や学生料金については、料金設定をする上で課題があることが分かりました。佐久島クルーズツアーのような多人数のツアーには、空きの席に学生料金を設けることを検討してくださるとのことだったので、ぜひ実現していただきたいです。

アプリについては、「西尾かき氷」や「家康公ゆかりの地　西三河ぐるっと歴史デジタルスタンプラリー」などの観光アプリがあり、楽しめる工夫がされているということが分かったので、これからも西尾市がより発展するようなアプリや情報発信を楽しみにしています。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／西尾中学校　寺島結萌

寺津中学校　犬塚涼介議員の質問が終わりました。

ここで、しばらくの間、休憩します。午後３時10分から再開します。

休憩　午後２時55分

再開　午後３時10分

議長／一色中学校　大岡優生

皆さん、こんにちは。僕は、後半の議長職を務めさせていただく一色中学校の大岡優生です。よろしくお願いします。

それでは、休憩前に引き続き会議を開き、質問を続けます。６番目の質問者、福地中学校　青山杏議員。

６番／福地中学校　青山杏議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「市民が誇れる町づくり」です。

現在、私は学校の社会科の授業で現代史や公民の内容を学習していますが、現代史の学習のキーワードとして「持続可能性」が挙げらます。今を生きる私たちの世代の幸福と、将来の世代の幸福を両立させていくことは大切なことだと思います。私が生活する西尾市の未来を考えたとき、私たちの世代への期待が大きいことは理解しています。

では、私たちの世代が将来西尾市に住みたいかと問われると、そうでもない人が多いようです。統計的にはサンプル数が十分でないことは承知していますが、私の同級生約100人を対象に「将来西尾市に住みたいか」とアンケート調査したところ、約60％の人が「住みたいと思わない」と答えました。

その理由として、１つ目は、西尾駅周辺地域と私たちが住む福地などとの地域差が大きい。２つ目は、人が集まれるような場や施設が他市に比べて少ない。３つ目は、現在、西尾市に住んでいてワクワクするようなイベントが少ない。４つ目は、西尾市が交流拠点と考えている場所は、名鉄西尾駅を中心とする都市拠点や、各支所を中心とする地域生活拠点のすぐ近くにあるわけではなく、山や海沿いの地域が多いため、車を持たない若い世代や高齢者が気軽に行けない、といったことが挙がってきました。

「西尾市都市計画マスタープラン」では、「２０３０年まで人口はゆるやかに増加していく」と書かれています。今から７年後は、私たちの世代も社会に出ていく歳になります。マスタープランに示されている人口増加を確実なものにしていくためには、西尾市をより魅力的にし、私たちの世代が西尾市を居住地として選択したくなるまちにしていく必要があります。

現在、国の政策として「異次元の少子化対策」が進められようとしています。子育て世代の人たちにとって金銭的な支援は非常に助かると思いますが、子育てをする環境も大切だと思います。西尾市に生活する多くの子育て世代の人は、子供を公園で遊ばせるために、わざわざ他市の公園に出かけます。また、買い物も他市のショッピングモールに出かけることがあります。他市にさまざまなものを求めるということは、西尾市における公共・民間のサービスが十分でないことを意味します。

このような現象が起こるのは、それぞれの市が、それぞれの「強み」を生かしたまちづくりをしているためだと思われますが、西尾市の「強み」は何かと問われると答えられない自分がいます。

「大企業だけでなく、中小の優良企業が多数集まる産業のまち」、「抹茶やうなぎ、花きなどの特産品を生産する農業のまち」、「西尾市歴史公園や国宝金蓮寺などをもつ歴史のまち」、「吉良ワイキキビーチや佐久島アートを中心とした観光のまち」。どれも魅力的ではありますが、「強み」と言えるまでではないと思います。まちづくりを進めていく上で、一つのものに集中しすぎるのは良くないですが、どっちつかずになるのも良くないのではないかと思います。

市民が、さまざまなサービスを享受しやすくなることは「住みやすさ」につながり、自分の住むまちについて自信を持って語れるようになることは「誇り」につながると思います。「住むやすさ」と「誇り」を両立させていくことで、私たちの世代が将来も「住み

たくなる」西尾市になっていくのではないでしょうか。
そこで質問します。
「西尾市都市計画マスタープラン」には、都市づくりの目標として９つ掲げていますが、目標によるまちづくりをどのように考えていますか。

都市整備部長／吉田修二
「都市計画マスタープラン」は、土地の使い方や道路・公園、環境の整備など、分野別にまちづくりの方針を定め、長期的な視野により都市づくりを考える計画で、西尾市が目指す都市づくりの長期的・総合的な指針になるものです。
この計画に掲げている９つの都市づくりの基本目標は、定住の促進、土地利用の誘導や道路・交通ネットワークなど、西尾市が抱える現状の課題解決に必要な複数の都市づくりのキーワードを踏まえて、目指すべき都市の姿として設定したものになります。また、基本目標の全てにＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の関連項目を位置づけ、持続可能な都市をつくることも目標としています。
これらの基本目標は、それぞれが都市づくりの要素であり、複数の目標を達成することが、「都市計画マスタープラン」で目指す将来都市像「住みたいまち　訪れたいまち　ワクワクするまち　にしお」につながるものと考えています。
また、この将来都市像が、青山議員のおっしゃる「住みたくなる」西尾市につながるようなまちづくりに努めてまいります。

６番／福地中学校　青山　杏議員
ありがとうございました。
続いて、２つ目の質問に移ります。
都市づくりの目標５に、「豊かな自然環境と調和した都市づくり」とありますが、現在、一色中学校の近くに産業廃棄物の処分場が造られようとしています。目標と逆行するように感じるのですが、それについてはどのように考えていますか。

環境部長／高須　耕
青山議員、一色町の産業廃棄物処分場建設計画について関心を持っていただき、ご質問いただきありがとうございます。少し長い答弁になりますが、ご承知ください。
一色中学校に隣接した一色町生田地区で、民間事業者が、事業所から出される産業廃棄物の埋立て処分場と焼却施設の建設を計画しています。
埋立て処分場の大きさは、容量はバンテリンドームナゴヤ６杯分に相当し、面積は東京ディズニーランドと同じくらいで、廃棄物を埋立て処分する期間は40年から50年とされておりまして、これは日本最大規模となっております。もちろん、産廃処分場自体は、私たちの生活や産業活動の維持・発展のためには必要な施設と言えますので、それ自体を否定するものではございません。
ただ、仮に計画どおりに一色町生田地区の海の近くで、産廃施設が稼働した場合、廃棄物を搬入する大型車両が多く通ることによって、一色中学校の生徒の皆さんの交通安全への影響が心配されるところです。それから、作業等がもたらす騒音・振動・悪臭や埃な

どの学習環境が悪化、ひいては生徒さんだけではなくて、周辺住民の皆さんの身近な生活環境への影響も心配されるところでございます。また、処分場からの排水については、例えば、昨日からニュースで話題となっております、福島原発の第一原発の処理水の海洋放出の問題と同じで、適切な処理を行う限り安全性に問題はないと頭では理解していても、一方で産廃処分場の存在そのものが、海産物や一色産うなぎ、三河一色えびせんべい等の地場産業に、風評被害をもたらすことが懸念されるところでございます。

また、この地域は、震災の被害想定が極めて高い地域で、もしも将来、液状化や津波による被害が生じた場合、廃棄物や処理前の汚水が豊かな三河湾全体に流れ出してしまうということも考えられますので、そうなると最早、西尾市だけの問題ではなくなってしまうということになります。

更にこの土地は、詳しい説明は省かせてもらいますけども、産廃跡地問題というもう一つ大きな問題を、実は抱えておりまして、この場所での産廃処分場建設は、そういった面であまりに多くのデメリットが考えられるため、西尾市としてはこの場所には建設すべきでないと、一貫して反対しているところでございます。

しかし、施設の設置の許可は、愛知県が権限を持っていまして、西尾市では権限がございません。市として地元住民及び地場産業関係者の方々と手を携えて、反対の意思を訴えていく以外に計画を止める方法がございません。

なお、地元住民の方々等で構成する市民団体による署名活動などが、地道にやってこられたことが実を結んで、令和４年３月に、この民間事業者から市に、産廃処分場の建設から別の事業に方針転換することを検討している、と連絡がございました

これより一歩進んだ状態にございますけども、ただ、この事業者はまだ計画を完全には撤回をしていないので、終わりは見えていない状態でございます。現在、西尾市では、地元住民の方々等と連携をして、事業者に産廃処分場計画の白紙撤回を求めておりまして、引き続き建設反対を強く訴えているところでございます。。

なお、今日の答弁だけでは分かりにくいところもあるかと思いますが、先ほど申し上げた産廃処分場の跡地問題という問題もありますけども、この辺りの問題についてユーチューブでも配信して詳しく内容を説明していますので、それをご覧いただいて、より深く知っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

６番／福地中学校　青山　杏議員

配信されている動画を拝見いたしました。とても分かりやすい解説で、より理解を深めることができました。ありがとうございます。

続きまして、３つ目の質問に移ります。

都市づくりの目標７に「受け継がれてきた歴史・文化を生かした都市づくり」とありますが、かつて歴史的価値のある旧井桁屋の取り壊しが行われるなど、失ってしまったものも多いように感じます。今後、歴史や文化をどのように生かしていくつもりですか。また、それを生かしたまちづくりとはどのようなものですか。

教育部次長／鈴木貴之

歴史や文化を生かしたまちづくりと言っても、歴史的な建物をカフェやショップに活

用することから、保存された建物の外観を眺めたり、建物がなくても、例えば江戸時代の城下町エリアが分かるように案内看板を設置したりすることまで、実に幅広い取り組みが考えられます。

そして、地域に残る大切な資産である歴史や文化を活用するためには、まず歴史・文化の内容を把握するための調査を行い、その歴史・文化のもつ価値を理解した上で、後世に伝えらえるよう「保存」することが必要です。

しかしながら、建物の安全性を確保するために莫大な費用がかかることや、建物の活用のめどが立たないなどのやむを得ない理由により、青山議員のご指摘のとおり、旧井桁屋を始めとする歴史的な建物や町並みが失われてしまったことについては、私たちも大変残念に思っています。

そうした中、西尾市では現在、文化財の保存活用事業として、100年以上前につくられた岩瀬文庫の旧書庫の保存修理や広場の再生、西尾城の表玄関であった大手門跡、今は中善楽器の東側の空き地になっている所ですが、それらの復元整備などに取り組み、歴史公園を中心とした観光ルートを磨き上げたり、まち全体で来訪者をもてなしたりする、西尾市の「強み」となるような魅力的なまちづくりを進めていきたいと考えています。

また、建物や史跡などのハード面ばかりでなく、まちの「景観」につながる「てんてこ祭り」、「一色の大提灯」や「鳥羽の火祭り」などの伝統芸能を含む民俗文化財や、全国的にも著名な詩人の茨木のり子氏や小説家の尾崎士郎氏など、地域にゆかりのある文化人の存在も、まちづくりのソフト面を支える大切な要素になります。市民の皆さんや来訪者の方が、まちの歴史や営みの積み重ねを感じられることが、広い意味での「歴史や文化を生かしたまちづくり」だと言えます。

このようなまちづくりの目的は、西尾市の歴史や文化をもっと知ってもらい、好きになってくれる市民を一人でも増やすことです。したがいまして、青山議員におかれましても、ふるさと西尾の魅力を今一度見つめ直していただくことにより、周りの人たちに「西尾市が持つすばらしさ」を自信を持ってＰＲしていただければと思います。

６番／福地中学校　青山　杏議員

まさに私の住む熱池町には、先ほどおっしゃられたように「てんてこ祭り」があります。私の住む町の大切な文化を守っていけるよう、私自身魅力をたくさん発信していけたらと思います。ありがとうございます。

続きまして、４つ目の質問に移ります。

「都市計画マスタープラン」に基づき都市をデザインしていくことは、市だけでは取組めません。そこに暮らす人々や、企業の協力が必要不可欠です。今後の西尾市をデザインしていく上で、官民が一体となるような取り組みや、市民の意見を反映できるような機会を考えていますか。

総合政策部長／西尾隆治

総合政策部からお答えいたします。

令和元年度から、西尾市においては市が抱える地域課題に対しまして、民間事業者等の自由な提案や相談を受け付ける「Ｃラボ西尾」という窓口を設置しております。この背

景としましては、自治体業務が多様化・複雑化・専門化しておりまして、多くの課題を解決したいという行政側のニーズと、市民サービスの向上や業務の効率化に活用できる民間事業者等のアイデア・ノウハウ・技術力等を掛け合わせる仕組みが必要であると考え、スムーズに対応できるワンストップ窓口を設置したというものでございます。

その結果、官民が一体となって取り組む事業も増えておりまして、ご存知かもしれませんが、今年の４月、株式会社セブン・イレブン・ジャパンから市制70周年記念を盛り上げるため。「西尾の抹茶」を使用したスイーツが販売されましたが、これは市と民間事業者一体となって取り組んだ地元特産品を活用したシティプロモーションの一つの事例となっております。

また、まちづくりに関して市民の意見を直接聴く機会としまして、本日開催の学生議会や高校生との懇談会、市長が地域に出向き対話する市政懇談会などがありまして、いただいたご意見等は今後の市政の取り組み等の参考にさせていただくものでございます。

産業部長／山本吉明

産業部関係分についてお答えいたします。

官民一体となったまちづくりの取り組みといたしまして、「中心市街地活性化事業」というものがありまして、まちなかの賑わいをつくるための活動が現在進行中でございます。

西尾駅西側の広場に設置された「ＢＯＸ　ＰＡＲＫ」という緑のコンテナハウスですけども、これは新しく西尾市内でお店を始めたいという方たちに、チャレンジショップの場として利用していただくことや、高校生のジャズバンドの演奏などステージとしても利用していただいております。市だけでやれるものではないので、企業や市民の皆さまと一体となって実施している事業になっています。

また、これだけでなく、「まちなかがこうなったらいいな」という意見について、ＬＩＮＥを使ったアンケートやオープンチャットを活用して、広く募集していくことを予定しています。さらに、そこで出たいろいろな意見について意見交換会を実施し、市民の皆さまと一緒に「こうなったらいいな」ということを少しずつ実現していきたいと考えております。ぜひ、一緒に市民が誇れる住みたくなる、そういったまちづくりにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

６番／福地中学校　青山　杏議員

私が日々の生活で感じる思いや疑問に、丁寧に答えていただきありがとうございました。普段の生活では見えにくい行政の方々の市政に対する考えを知ることができ、とても勉強になりました。私たちは３年後には有権者になり、政治をより身近に感じるようになります。私たちの意見が市政に反映されるよう、自分の住むまちの取り組みに関心を持っていきたいと思います。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／一色中学校　大岡優生

福地中学校　青山　杏議員の質問が終わりました。

次に、７番目の質問者、平坂中学校　吉川瑞規議員。

７番／平坂中学校　吉川瑞規議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「名鉄西尾・蒲郡線を活用した地域活性化」です。

西尾には、「吉良ワイキキビーチ」や「国宝金蓮寺」「西尾の抹茶」「一色産うなぎ」などの多様な観光資源があります。コロナ禍以前の令和元年の観光客数が361万2,360人であることからも、西尾市の観光資源は大きな魅力をもっています。

しかし、これらの多様な観光資源があったとしても、それぞれ一つずつはインパクトが十分ではないように思います。

また、市内にＪＲ線が通っていないことや、名鉄西尾・蒲郡線が廃線の危機に陥っていることから、西尾市の公共交通網には弱さがあるように思います。実際に、西尾市を訪れる観光客の85％が自家用車で移動しているという調査結果もあります。インバウンドの観光客の呼び込みが、観光業の成功において重要であることから、観光客が公共交通機関を利用しやすくすることで地域はさらに活性化すると思います。

そこで、西尾市の地域活性化のために次の提案をします。

それは、名鉄西尾・蒲郡線を利用した観光列車の企画です。西尾市は一色、吉良、幡豆にベイエリアを有しており、美しい三河湾や自然豊かな山々を眺めることができます。その強みを生かし、名鉄西尾駅から蒲郡駅までの区間を、食事や抹茶スイーツを楽しみながら移動することのできる観光列車を運行してみてはいかがでしょうか。

海外でも人気の抹茶スイーツをふるまえば、インパクトのある観光資源を広く知っていただく機会となり、ほかの観光資源と観光客を結びつけやすくなるはずです。さらに、名鉄西尾・蒲郡線の利用者が増えることで、廃線問題の解決にもつながるはずです。また、名鉄線の利用者が増えれば、岡崎市や安城市のように市内での名鉄線とＪＲ線の乗り入れについて交渉できるようになると思います。

そこで質問します。

インバウンドの観光客を呼び込む施策について、市はどのように考え、どのような取組みをしていますか。

交流共創部長／石川孝次

日本の観光産業は資源の豊かさなどポテンシャルは高く、インバウンド需要の取り組みは国の成長戦略の柱になる可能性があるとされており、西尾市においても、多くのインバウンドを呼び込むことが観光行政において重要な課題であると認識しています。

現在、行っている具体的な取り組みといたしましては、ターゲットを抹茶が人気であるタイに絞り、タイの博覧会に出展し、現地プロモーションを行っています。

また、ＳＮＳを活用した誘客も効果的であると考え、人気インスタグラマーの登用や、外国人旅行者に人気の旅アプリなどを通したＰＲも行っているところです。

しかしながら、数ある日本の観光地の中から西尾市の観光資源だけで、インバウンドを呼び込むことは非常に難しいことです。

一方で、西尾市には鰻や抹茶、醸造などの食や文化において、外国人に人気のあるコ

ンテンツも多く、それは外国人観光客に足を向けてもらう強みであると考えます。
今後は、西尾市観光協会などと連携し、外国人観光客の興味を引く商品の開発や、効果的な販売方法について改めて検討してまいります。

７番／平坂中学校　吉川瑞規議員
ありがとうございました。
続きまして、２つ目の質問に移ります。
現在、実現に向けて動いている「にしがま線」を活用した観光地域づくりの取り組みはありますか。また、「にしがま線」において、ゆっくりと食事やお酒が楽しめる観光列車を運行しませんか。

市民部長／小林明子
「にしがま線」を活用した観光地域づくりの取り組みにつきましては、令和３年12月に西尾市・蒲郡市・名古屋鉄道の３者で締結した「名鉄西尾・蒲郡線に関する連携合意書」に基づき、「地域とともにさらなる観光推進」に取り組んでおります。その一つとして、９月９日（土）から、西尾・蒲郡線を走る６０００系ワンマン車両に、かつて西尾・蒲郡線で運行していた５５００系車両の復刻塗装を施して運行します。
ライトピンクと茶色のツートンカラーで復刻した車両により、当時を知る人は昔を懐かしんでいただき、知らない人にとっては目新しさを感じられる、「にしがま線」の新たな魅力として誘客推進や交流人口の増加など、観光活性化のコンテンツとして活用してまいります。
また、食事やお酒が楽しめる観光列車の運行につきましては、走行環境や車両の整備に多額の費用を要するため、現時点ではそのような計画はございませんが、市民等が主催する市制70周年記念市民公募事業において、名鉄電車の車内空間を活用した１日限りのレストランを10月に企画しています。
このように、市と民間が協力した企画を実施することは、今後の取り組みの参考となり、「にしがま線」の活性化につながるものと考えています。

７番／平坂中学校　吉川瑞規議員
ありがとうございました。
名鉄「にしがま線」や西尾市の観光資源について、これからの具体的な内容を知ることができ安心しました。一西尾市民として、期待しています。
以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／一色中学校　大岡優生
平坂中学校　吉川瑞規議員の質問が終わりました。
次に８番目の質問者、佐久島しおさい学校　加藤日和議員。

８番／佐久島しおさい学校　加藤日和議員
はい。それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「地域の特産物、資源を大切に」です。

令和４年１月に、「中国産アサリの産地偽装問題」がニュースで大きく報道されました。「熊本県産」として売られていたアサリの多くが実は中国産だったとわかり、ブランド品だったアサリの価値や熊本県への信頼はがくんと落ちました。私も佐久島でアサリの養殖に関わっているので、このような問題が起きたことにショックを受けました。小売店舗や私たち消費者が裏切られたような気持ちにもなりました。

私はこの報道をきっかけに考えました。それは、地元の特産品をもっと大事に扱っていかないといけないということです。日本人は国産と外国産のものが売られていた場合、国産のほうを手に取るとことが多いそうです。インターネットの意識調査では、「安全だ」「付くっている人を信頼できる」という理由が圧倒的でした。作り手がわかることは安心につながるのだと思います。

反対に、外国産を買う一番の理由は「安さ」でした。高くても良いものを食べたい人もいると思いますが、一方で、誰がどのように作っているのか分からないのは不安だけれど、家計にやさしいから買う人もいます。矛盾しているように思えるけれど、そのようなことを考えながら買い物をする人はたくさんいると思います。

消費者の視点に立つと、熊本県産のアサリを信頼して買ったのに、実は中国産アサリを食べていたということで、だまされたという気持ちになったでしょう。西尾市では、このような偽装などの不正行為がどのように防止されているのか気になりました。

次に、生産者の視点から考えると、僕は、日本でも外国でも生産者はプライドを持って目の前のものを育てていると信じています。私は、総合的な学習の時間に「アサリの養殖」に取り組んでいます。佐久島のアサリはおいしいと評判で、市内でも高値で取引されています。しかし、そのアサリも年々数が減ってきているのが問題になっています。

私は、アサリの養殖を「学校の勉強だから」として行っているのではなく、「大事な地域の財産であり、先輩たちから受け継がれていることだから続けたい」という気持ちで行っています。アサリの養殖は簡単ではないので、熊本県だけでなくほかの地域の生産者も頭を悩ませていることも分かります。

実際に、佐久島のアサリもほかの地域で生まれた稚貝を買ってきて、長い間養殖しているものもあります。魚介類には「長いところルール」があり、養殖の場合、輸入された稚貝でも１年半以上育成されたものであれば、育成地を原産地として良いことになっています。そのため、私も島の人たちも「島アサリ」として出荷できることを願いながら、稚貝を育てているのです。厳しい状況の中でも、自分が育てたものにプライドを持っている生産者の思いを知っているだけに、私は「地産偽装」を許せませんでした。

熊本県のアサリ業者たちが厳しい状況の中でマイナスの決断をしてしまったのには、何か理由があると思います。しかし、何とか地域で支え合い、このような行為が起きる前に食い止めることができなかったのでしょうか。そして、西尾市ではこのようなことが起きてほしくないと思いました。地域の中で、地域の特産品や資源を守っていける体制が整っていれば、生産者もプライドを持って地域資源を育てることができ、私自身も引き続き佐久島のアサリ養殖に前向きに関わっていけます。

そこで、農水産業従事者の生の声を聞く機会が定期的にあるのか、また、農水産業従事者が困ったときに相談できる場所があるのか知りたいです。

そこで、次の２点について質問します。

西尾市には安全で良質な農水産物が数多くあります。それらを育成・出荷・販売する際に、産地偽装などの不正行為が起きないための対策をしていますか。また、対策をしているのであれば、どのような内容ですか。

産業部長／山本吉明

現在、農水業者は、一般的に生産に関わる生産履歴の記録を求められており、生産物を出荷する場合は、その記録を農業協同組合（ＪＡ）、または漁業協同組合へ提出することが求められています。

昔はその記録がなかったため、産地偽装という行為自体の把握ができませんでしたが、現在はその記録がしっかりしておりますので、不正行為が分かるようになっております。

また、西尾のアサリ漁につきましては、回復基調にあります。これにつきましては、アサリを食べる食害生物の除去に積極的に取り組むことや、先ほど議員もおっしゃっていましたけれども、アサリの幼い小さな貝を西尾市沿岸に放流するなどの取り組みをしております。放流する小さな貝につきましては、豊川河口付近の六条潟で発生するアサリに限定する取り組みをしておりますので、安心・安全にこだわり、西尾産アサリの漁獲量や取引単価の向上に努めております。

また、新たな取り組みとしまして、市内の海にポールを立て、アサリをかごを入れて吊るす養殖の取り組みを始めております。佐久島の島アサリとともに西尾産アサリのブランドの力を向上に取り組んでまいりたいと考えております。一緒に頑張っていきたいと思います。

８番／佐久島しおさい学校　加藤日和議員

ありがとうございました。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

農水産業従事者を支援する目的で市が、農水産従事者の生の声を聞く機会が定期的にありますか。また、農水産業従事者が困ったときの相談窓口がありますか。

産業部長／山本吉明

農業と水産業双方に言えることですが、農協や漁協の職員と意見交換の場を年に数回ずつ設けており、生産現場とのコミュニケーションを大切にしております。

特に農業につきましては、イチゴやキュウリなど各生産者でつくるグループの会議に市の職員が参加することや、生産者に身近な農協や漁協と意見交換を行うことで、生産者の方々の現場の声を聞くことに努めています。

困ったときの相談窓口としては、市では、農水振興課が相談窓口となっており、生産者が農業資材や農業用機械を導入する取り組みに対する補助金等の助言を行っております。

専門的な技術などの栽培技術、養殖技術の助言につきましては、県、農協、漁協において行っておりますので、市の農水振興課はこれらの機関と連携して農水産業従事者をサポートできるような体制に取り組んでいます。

８番／佐久島しおさい学校　加藤日和議員

ありがとうございました。

今回、私が「地域の特産物、資源を大切に」というテーマにしたのは、食品の産地偽装問題のニュースを見て、地域の特産品や資源を守るためには生産者の努力だけではなく、地域の行政との伝え合いが大切ではないかと考えたからです。

今日、ご答弁いただいたことを受けて、私自身改めて佐久島のアサリ養殖に前向きに関わり、地域の特産品や資源を大切にしていきたいと思いました。

今後もより一層、農水産業従事者とのコミュニケーションを密に取り、必要な取り組みはサポートしていただきたいと思います。

以上で、質問は終わります。ありがとうございました。

議長／一色中学校　大岡優生

佐久島しおさい学校　加藤日和議員の質問が終わりました。

次に、９番目の質問者、西尾中学校　手島結萌議員。

９番／西尾中学校　手島結萌議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「三河の小京都　西尾」です。

西尾は、「三河の小京都」と呼ばれており、京都市を含む38市町が加盟する全国京都会議でも認定されていると、ある記事で目にしました。

小京都に認定されるには、１つ目、京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがある。２つ目、京都と歴史的なつながりがある。３つ目、伝統的な産業、芸能があるという３つの条件のうち、一つ以上当てはまることが基準とされています。

そんな、「小京都」を象徴する西尾城周辺から、歴史的な観光地である伊文神社や岩瀬文庫までが遠いため、その間にある地域をより魅力あるものにしていくことも大切だと感じています。

西尾市観光協会のホームページの観光街道モデルコースの中に、小京都にしお「城下町歴史小怪散策」Ａコースがあります。六万石の城下町として栄えた小京都西尾を感じられるコースで、西尾城のある歴史公園周辺、康全寺や伊文神社などの神社仏閣、肴町や順海町といった城下町のたたずまいが残る町並みなどを訪れますが、体験できるところが少ないと感じます。

食べ歩きができたり、抹茶、味噌、鰻などの地元の産業を盛り上げるために、実際に抹茶を挽いたり点てたりするワークショップを開いてはどうでしょうか。

追体験することで西尾の産業に興味を持ってもらうことができますし、実際に知ってもらうことで市内に多くある歴史的な観光地に行ってもらえると思います。その中で、私たちのような学生がボランティアでワークショップ運営の手伝いやごみ拾いをしたり、市内小中学校の茶道部による呈茶サービス、家庭科部によるハンドメイド品の販売や美術部による作品展示などを行ったりすることで、西尾の観光を盛り上げたいと考えています。

そこで、質問します。

みなとまつりなど、地場産業や特産品を知ってもらうためのイベントを開催していま

すが、観光振興及び産業振興の今後の課題は何だと考えますか。

交流共創部長／石川孝次

みなとまつりなどイベント開催による観光・産業振興につきましては、実際に西尾市にお越しいただき、肌でその魅力を感じてもらうことに大きな意義があると思います。

また、特産品を知ってもらうため、毎年、全国各地のイベントに出向いてＰＲを行うとともに、「記念日に西尾を贈ろう」と題して、茶摘み体験、塩焼き体験、鰻の炭火焼体験、フラワーギフト制作体験など、特産品をテーマにしたイベントを行うなど、さまざまな形でのＰＲに努めています。

また、そのほか、特色ある取り組みとしましては、西尾市鋳物工業協同組合において、地場産業の鋳物の製法でアイス用のスプーンを製作する体験会も開催されています。

しかしながら、地域ブランドに認定されている抹茶、鰻、えびせんべいなどの特産品でさえも、日本全国での知名度はまだまだだと感じています。

今後の課題としましては、西尾の特産品を知ってもらうとともに、市外からより多くの誘客を図るためには、ＰＲ方法の検討や新たなイベントコンテンツの導入、そして、いかにそのイベントを魅力的なものにしていくかが重要になると考えています。そして何より、手島議員はじめ、未来を担う若い世代の意見を伺いながら施策を展開することが重要だと思います。どうしたら西尾市の特産品が盛り上がり、地域が活性化していくのかを一緒に考えていただけたらと思います。

９番／西尾中学校　手島結萌議員

ありがとうございました。

産業を盛り上げ、地域を活性化させるには、市と企業が協力していく関係をより構築させる必要があることと、私たち市民も共に活動していくことが必要だと思いました。

今後、西尾市以外の方々にも、西尾の産業に触れる機会やイベントなどを増やし、西尾市産の農産物のファンが増えていくといいなと思います。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

歴史公園周辺の整備が今後進む中で、城跡や城下町を活かしたまちづくりについて、市の展望を教えてください。

交流共創部長／石川孝次

交流共創部長から観光振興についてお答えします。

西尾市では「西尾城跡保存活用計画」により、歴史公園や城下町を含む西尾城跡の整備や活用について、今後の方針を定めています。

なかでも歴史公園につきましては、平成８年に本丸丑寅櫓と鍮石門を再建し、平成27年には天守台と石垣を、そして、令和２年には全国的にも珍しい屏風のように折れ曲がった「屏風折れの土塀」と公園内の最も北側に建つ「二之丸丑寅櫓」を建設するなど、順次整備を進め多くの観光客の誘客に努めております。

現在は、福地中学校の青山議員の質問の答弁にもあったように、西尾城の正門である大手門があった一角の整備を、令和８年度末の完成を目指して行っているところで、歴史

公園の本丸・二之丸周辺のみでなく、観光客の足を城下町エリアにも向けてもらうきっかけになることを期待しております。

一方で、本市の観光を盛り上げていくためには、手島議員からご提案のあった食べ歩きや体験なども重要な要素の一つであると認識しています。

市としましても、観光資源そのものの魅力向上が、観光客をターゲットにした店舗を呼び寄せると考えますので、まずは観光資源の充実とＰＲを図ってまいります。

産業部長／山本　吉明

産業部関係部について、ご答弁いたします。

現在、西尾市におきましては、市民の皆さまや事業者、団体などが一体となって西尾市周辺を中心としたまちなかのにぎわいを創出するため、「中心市街地活性化ビジョン」の策定を進めております。

城跡や城下町のたたずまいが残る町並みは、中心市街地エリアの歴史、文化、観光の貴重な資源となっております。今後、ビジョンを策定にあたり、市民の皆さまから市公式ＬＩＮＥや意見交換会等をつうじて、「こんなまちなかになってほしい」などのご意見やアイデアをいただく予定です。いただいたご意見などを基に、城跡や城下町の有効活用を含めたまちなかの魅力や活力の向上につなげたいと考えております。

また、先ほど、西尾市の観光を盛り上げるためにボランティアによるさまざまな活動を考えていらっしゃるとお聞きし、とても頼もしく感じております。ありがとうございます。また、先ほどの中で、ハンドメイド作品のマルシェでの販売などについては、関係者に確認したところ、「是非参加してほしい。応援したい」とのことでした。

今後いろいろな分野で手島議員をはじめとした、中学生の皆さんと一緒に、三河の小京都である西尾市を盛り上げていきたいと考えております。

９番／西尾中学校　手島　結萌議員

ありがとうございました。

西尾城の整備が進み、多くの観光客の方が訪れていただけると知り、嬉しく思います。また、ボランティアについても、今回の学生議会がきっかとなって、広がっていくのを楽しみにしています。

そして、ボランティアを通して、より西尾市のまちを、私たち中学生としても盛り上げていきたいです。観光資源の充実が大切であることを今回の学生議会で学び、西尾を盛り上げるため、イベントの参加はもちろんのこと、周りの仲間とともに考え、今後も私たちの思いを発信していきたいと思います。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／一色中学校　大岡優生

西尾中学校　手島結萌議員の質問が終わりました。

次に、１０番目の質問者、吉良中学校　瀬川はな議員。

１０番／吉良中学校　瀬川はな議員

はい。それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは、「人でにぎわうきれいな海にするために」です。

私は、父親の影響で海が大好きです。以前、長崎に住んでいましたが、長崎の海と比べると、西尾の海は少し汚いように感じました。西尾で育った友人は「前よりもきれいになったよ」と言っていたので、以前はもっと汚かったのかと疑問を持ち、西尾の海の現状について調べてみることにしました。

令和４年の「全国水が汚い海水浴場ランキング」では、寺部海水浴場が３位にランクインしています。また、宮崎海水浴場は令和元年に、日本一汚い海水浴場とされてしまいました。令和４年の調査では19位と、徐々に改善はされていると思いますが、まだ上位に位置しています。ちなみに、令和４年の調査で西尾市の海は、23位内に３カ所ランクインしました。

海水浴場は、観光資源としてとても価値があると私は考えます。西尾の海をきれいにしたら観光客もふえ、西尾市が活気づくのではないでしょうか。コロナ禍で減少していた外国人観光客も多く、日本に訪れているとニュースで報道されています。インバウンドによって、西尾の経済も支えられるのではないでしょうか。

愛知県の取り組みとして、海ごみ問題を伝え、広く関心を持ってもらうためのパンフレットや動画の作成をされているとのことですが、多くの県民に届いていないと思います。私も、今回調べてみて初めて知りましたので、受け身でも情報が届くような仕組みが必要だと感じました。

私たちの世代はＳＮＳで情報を知ることが多いです。例えば、シティプロモーション大使の皆さんに、西尾の海の現状を発信してもらい、環境保全対策や環境美化の意識を高めてもらってはどうでしょうか。また、地域の学生やボランティアの方々と協力して清掃活動を行うことや、海に観光客を集めるイベントを今以上に増やすことで、外国人観光客などが多数訪れる「人でにぎわう吉良の海」になると思います。

そこで、質問します。

西尾市の海水浴場は水質及びごみの両方で汚いという問題に対して、私たちはボランティア活動に参加していくべきだと考えていますが、市として他にどのような解決方法を考えていますか。

環境部長／高須　耕

ご質問ありがとうございます。

まず、本市の海水浴場の水質が「汚い」という形でランキングされてしまう要因ですが、三河湾は水深が平均約９ｍと全体的に浅い海で、知多半島と渥美半島に囲まれた閉鎖性水域ため、川から流れ込む生活排水や工業排水などの汚濁物質が堆積しやすいという特性によるものと考えられています。

このように地理的な原因によるものだと対処は難しいところですが、だからと言って諦めてしまうわけでもありませんので、本市では、まずは、こうした排水を公共下水道や合併処理浄化槽などを通じて、きれいな水にしてから川に流れ込むように取り組んでいます。ただ、あまり浄化しすぎると、今度はアサリなどの生物が育ちにくくなる可能性もありますので、本当の意味で豊かな海にするために何が必要か、市民の皆さんとともに考え

ながら取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

次に、海のごみについては、主に、ポイ捨てされたごみや、外に放置されていた日用品などが風や雨で川に入り、流れに乗って海へ出て海岸に漂着するものと一般的に考えられています。

瀬川議員からは、クリーンアップのためのボランティア活動に参加していくべきと、本当に頼もしいご意見をいただいたのですが、その取り組みをしていただく前に、まずは、こうしたごみを減らす工夫、具体的には余分なものは買わない、海水浴場で出たごみは必ず持ち帰る等、一人一人が気を付けるだけで、海ごみは確実に減らせることができるのではないかと考えております。

残念ながら、ごみの減量化に特効薬はありませんので、そのため環境部では、昨年こういった回収袋を各世帯に配らせていただいて、「雑がみ」の分別の啓発を行っているところです。こういった分別をきっかけに、市民の皆さまが分別にご協力いただけるよう積極的に周知活動を行っておりますので、皆さまにご協力いただければと思います。

１０番／吉良中学校　瀬川　はな議員

ありがとうございました。

水質がきれいになると、透明感があり観光に適した海になると考えていましたが、アサリなどの生物にとっては住みにくい環境になってしまうという、新たな視点に気づくことができました。豊かなな海とはどんなものなのか、私も考え直したいです。

続きまして、２つ目の質問に移ります。

沖縄県では、県民が自然に恩返ししたいという思いでボランティアの方々が、定期的に清掃活動を行っているそうです。西尾市は、今後そういった活動を観光ＰＲと組み合わせで行う予定はありますか。

交流共創部長／石川孝次

西尾市におきましても、ボランティアによる清掃活動はさまざまな場所で積極的に行っていただいており、先月も宮崎海水浴場では、「ボランティア１０００人クリーン作戦」が行われ、多くの方にご参加いただきました。

そのほか、佐久島では、「海岸漂着ごみ回収活動ボランティア」や、海を豊かにしようと島の中学生が2002年から始めた、「アマモを増やして藻場を再生する活動」に今年も300人のボランティアが参加して、アマモの移植活動をしていただいたところです。

一方で、全国的に言いますと、昨年、カタールで開催されたワールドカップでは、日本人の観客が観戦後、自発的に観客席を掃除していたというニュースが話題になりました。

瀬川議員ご提案のボランティアによる清掃活動と、観光ＰＲの組み合わせも面白い取り組みだと思いますが、ボランティアの根底にあるものは、沖縄県の清掃活動がそうであるように、「その場所を大切にしたい」という思いや、「このイベントを気持ちのいいものにしたい」といった、それ自体を大切に思う気持ちであると考えます。

今後は、イベント終了後に会場の清掃活動にご協力いただく時間を設けるなど、長い年月愛されるイベントを参加者と一緒に築いていけるような方策について検討してまいります。

１０番／吉良中学校　瀬川はな議員

ありがとうございました。

私は西尾の海が好きです。西尾市に住む皆さんにも、もっと海を好きになってほしいです。

今回の議会を通して、西尾市の皆さんが海の問題に対して真剣に考えているということがわかりました。海をきれいにするには、大きな活動を行うというよりも、一人一人の意識が大切なんだと気付きました。これから先、私自身が海をもっと大切にしたいという意識で、人でにぎわうきれいな海づくりに貢献していきたいです。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

議長／一色中学校　大岡優生

吉良中学校　瀬川　はな議員の質問が終わりました。

以上で、本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして、西尾市学生議会を閉会します。

総合製作部長／西尾　隆治

皆さま、ありがとうございました。長時間にわたり、ご協力いただきありがとうございます。

それでは、ここで教育長から講評をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

教育長／稲垣　寿

皆さん、こんにちは。教育長の稲垣です。

10人の中学生議員の皆さん、ただいまは、堂々とした立派な質問をありがとうございました。何よりも、皆さんの質問している姿がとっても気持ちいい。そして強さを感じました。その背景には何があるかというと、皆さんがここで質問をしようと思った内容が、「質問をしたい」「自分はこのことについて、こう思った」などというところの意思が、ものすごく強く感じられてとても頼もしく思いました。

実際、この場所で、本物の議場で中村市長はじめ、市幹部の方たちに向かって、自分の思うことを質問することができたと思います。緊張感もあったと思いますが、今は、大変充実感も得られ、ほっとしている状況ではないかと思います。

ところで、皆さんは市議会の中継を見たことがあるでしょうか。間もなく９月の議会が始まりますが、そこでも今日皆さんが質問してくれたように、市民の代表である市議会議員の方たちが、今の皆さんのその席に３０人座られて、理事者側に対して質問します。理事者というのはですね、今ここで答えている市長はじめ、こちら側にいる市の部局長など全体を理事者と言いますが、その人たちに向けてさまざまな質問をして、西尾市民が幸せに暮らせていくためにどうしていったら良いか、ということを話し合っています。

西尾市の産業を発展させたり、住みよいまちをつくるために、福祉や教育、環境問題から災害対策など、西尾市のありとあらゆる課題を洗い出して、その解決に向けた協議をしています。よって、ここでの議会での仕事というのは、西尾市の未来を左右していくこ

とになりますから、ものすごく重い責任を負っているわけです。ですから、この議場がとっても重厚であり、厳粛な雰囲気につくられています。

そして、市長や市議会議員が選挙で選ばれるのも、結局、西尾市の未来を託す、そういう重大な仕事を任せられる、信頼のできる人を市民全員で選ぶためなのです。これは、みんなの生徒会の役員選挙とか、学級代表あるいは室長、その選挙と同じ意味合いです。だから、市議会議員や市長選挙と同じ理屈で、みんなは生徒会役員選挙や室長や学級代表の選挙をしているということです。「この人なら」という信頼できる人を選ぶという意味なのです。

本日皆さんは、各学校の代表として一生懸命西尾市のことを考えて、質問や提案をしてくれました。その思いに答えるために、市側の回答も、中学生だからという遠慮とか子供扱いは一切なく、手加減なしで本物の議会と同様に検討しまして回答させてもらいました。

昨年の学生議会で提案された、抹茶の日を盛り上げるための、そこから出てきた西尾城のプロジェクションマッピングや、あるいは、マラソン大会での特産品の振る舞いというのは、学生議会を元に確実に実現しています。皆さんが本日受け取った回答も、掛け値なしの本物です。また、皆さんの意見を元に、何かが実現していくといいなと思っています。

皆さんには、今回の経験をもとに、これからもさまざまな問題に気づき、それを解決するための方法を考える人になって欲しいと思います。そして、西尾市の未来、日本の未来、さらには世界の未来を担っていく、そういう人になっていってください。

10人の中学生議員の皆さんに、大きな期待と今後の活躍を願って、私の指導講評といたします。本日は皆さん、本当にご苦労様でした。

総合政策部長／西尾　隆治

最後に、中村市長から、お礼のごあいさつを申し上げます。

市長／中村　健

皆さん、どうもお疲れ様でした。

どの中学生議員の皆さんも、西尾市の将来や西尾市の抱える課題について、他人事ではなくて、自分事として受け止めて、様々な分野を取り上げてもらえたことを非常に嬉しく思います。

以下、個別にコメントさせていただきたいと思います。

まず、１番目、幡豆中学校の三浦彩未議員。

「にしがま線」については、西尾市にとってとても大事な路線であり、絶対に残さないといけない路線だと思っています。電車に乗りたくなる仕掛けというのも我々行政でも考えていきますが、やはり利用者を増やすためには、一人一人の善意と協力が必要です。三浦さんも今後、おそらく自動車の運転免許を取ると思います。車の方が便利になりますが、時々は電車に乗るということを意識して、電車に乗る機会をつくって欲しいと思います。ありがとうございました。

２番目は、東部中学校の小林杏奈議員。

安全性というのは、まちづくりをしていく上で一番手を抜いてはいけない視点だと思っています。現状でも、学校や町内会の協力を得ながら、交通安全の確保に努めているわけですが、皆さんは、歩行者の視点や自転車利用者の視点で、ここは危ないのではないかということが日常生活の中できっとあると思います。

どうしても大人だと、車運転の目線で見てしまうので、そういった子供たちの目線から、ここは危ないのではないかというところは大事な視点です。また、具体的に「ここが危ない」という場所があれば、学校を通してでも結構ですので教えてください。ありがとうございました。

３番目が、一色中学校の大岡優生議員。

シビックプライドという、自分が住むまちへの誇りや愛着というのは、近年、特に西尾市でも力を入れているところであります。ただ、誇りをもっと高めていくためには、他人任せにするのではなくて、自分が率先して動いてみるということもすごく大事だと思います。

一色町には、大提灯だけではなくて、鰻や佐久島など本当に誇れる宝というものがたくさんありますので、自分に何ができるかを考え、行動して欲しいなと思います。ＳＮＳについても取り上げてもらったので、もし良かったら、この後一緒にＳＮＳ用の動画を撮れればいいかなと思います。ありがとうございました。

４番目が、鶴城中学校、浅井若菜議員。

日本全体は近年、経済的にすごく豊かになっていますが、そういう今でも、なかなか自分の居場所がなくて悩んで苦しんでいるという人は、実は少なくないと思っています。

西尾市では、10年毎にまちづくりの大きな計画を作っています。今年度から新しい計画がスタートしましたが、その中でも居場所づくりというのは最重要事項ぐらいに位置付けていますので、ほっと安心できる場所だとか、逆に生き生きと輝ける場所などを行政としてもしっかり作っていきたいと思っています。ありがとうございました。

５番目が、寺津中学校の犬塚涼介議員。

観光において、実は、西尾市の注目度というのは高くなってきています。民間事業者の方々の活躍がもちろん大きいですが、市外や県外の人から、遊びに行く目的地として、今、西尾市が選ばれる場所に実はなってきています。

西尾市というと、抹茶や鰻というのがすごく有名ですが、それだけではなくて、お寺や町並みなどの歴史文化の視点、あるいは佐久島や海岸などの自然を始めとして、誇れる観光資源がたくさんあります。

近年は旅行会社のツアーよりも、個人で調べて行くというのが主流ではありますが、効果的にＰＲするためにはどうすればいいかというところは、しっかり知恵を絞っていきたいなと思います。ありがとうございました。

６番目は、福地中学校の青山杏議員。

西尾市を今以上に魅力的なまちにしていくためには、市民や企業といった、いわゆる「民の力」というのが非常に大事だと思っています。そのためには、市民の皆さんや企業が何ができて、何を求めているかということを、我々行政としても把握する必要があります。また、逆に行政としての考えをしっかり伝えるということが大事だと思いますので、まずはしっかりと対応するということが一番大事かなというところで、市民の皆さんとの

対話の機会をなるべく設けるようにしています。

学生議会も同様で、若い世代の皆さんと丁寧に話し合うという機会をこれからもつくりながら、一緒に西尾市を良くしていきたいなと思いますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

７番目は、平坂中学校の吉川瑞規議員。

電車をただの移動手段として捉えるのではなくて、電車に乗ること自体が目的となるような観光列車の発想というのは、すごく大事で良い線を突いてくれたと思っています。

具体的には名鉄の協力がないと実現できないこともありますが、提案にあった観光列車の運行を始めとして、先入観というか固定観念に囚われない柔軟な発想で、これからも名鉄の利用促進に取り組んでいきますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

８番目、佐久島しおさい学校の加藤日和議員。

農水産物というのは、やはり口に入るので、安心・安全というのはとても大事な視点です。それに加えて農業や漁業は、一次産業になりますが、近年、後継者不足などで非常に苦しんでいる生産者の方々が多いです。今回取り上げてくれたアサリ以外にも、抹茶、鰻、キュウリ、イチゴを始めとして、本当に西尾市というのは農業や漁業に関する物の生産が盛んなので、国や県と協力をしながら、生産者の皆さんにしっかりと寄り添って支援をしていきたいと思います。ありがとうございました。

９番目、西尾中学校の手島結萌議員。

西尾駅の西側を中心とした一帯を、中心市街地と特に呼んでいますが、小京都という言葉に代表されるような歴史的・文化的な趣を残す場所も非常に多いところです。

ハードという施設など形あるものの整備も大事ですが、ソフトというイベントなど、形にない活動というものも実はすごく大事で、ソフト事業で盛り上げてくれる市民の方が増えると、西尾のまちももっと盛り上がると思っています。

中学生が自らイベントを企画して、市の土地を使って活動するということも、先ほどの答弁にもありましたが、十分可能ですので、具体的に考えがまとまったときには、学校を通して教育委員会に相談してもらえれば、「こういった場所が使えますよ」ということで、協力できますので、ぜひ相談して欲しいなと思います。ありがとうございました。

最後、10番目、吉良中学校の瀬川はな議員。

ＳＤＧｓとか、カーボンニュートラルという言葉を授業などで聞いたことがあるかなと思うのですが、近年、環境に配慮した生活の大切さが再認識されています。

便利で豊かな生活を実現するために、我々人類が、これまで環境を犠牲にしてきてしまった面は否定できないと思います。これからは環境と便利さというものを、いかに両立できるかということがすごく大きな課題になってきます。

ただ、そのためには、市役所が旗を振るだけではなくて、やはり、一人一人の意識と行動がとても大事になりますので、きれいな海、きれいな環境の西尾市にしていくためには、「自分に何ができるか」ということを考えて、活動の輪を広げる協力をしてもらえるとありがたいと思います。ありがとうございました。

個別のコメントについては以上になりますが、今回、答弁をさせてもらう中で、我々が意識したことがあります。それは何かと言いますと、「一緒になって考えましょう」

「一緒になってやりましょう」「行動を起こしてくれること期待します」という答弁が、結構多かったと思います。

これは何故かと言いますと、ひとつは、これから皆さんが成長していく中で、自分で考えて、自分で行動できる人というのが、社会に求められていくのは間違いないので、そういう人材に成長して欲しいという期待を込めて伝えたことです。

また、自分自身の経験を含めて少し言わせてもらうと、僕は今、西尾市長をやっていますが、学生のときはあまり西尾市のことが好きではありませんでした。ただ、当時のことを振り返ってみると、あまり西尾市のこと知っていなかったし、たぶん知ろうともせず、その一方で、ほかの市の良いところばかり目がいっていたと思います。それで西尾市が何かつまらないなと言っていた自分があります。

でも、自分が率先して動くようになり、様々な立場の方とつながりができてくると、西尾市の良いところというのが、今以上にたくさん見えてきます。そうすると、西尾市が好きだなという気持ちがきっと高まると思うので、皆さんも、今でも西尾市が好きだと思いますが、より自分でアクティブに動いてもらうことで、更に西尾市に対する誇りや愛着を高めてもらいたいと思います。自分で行動する人が増えることが、西尾市全体の活気や活力につながると思っていますので、ぜひともそういったところを期待して答弁をさせてもらいました。

我々行政というのは、やはり主役ではなく、主役は市民の皆さんです。活発に活動してくれる市民の皆さんが増えることが、西尾市の活気につながっていきますので、そのために市役所として何ができるかということは、しっかりと知恵を絞りながら皆さんのチャレンジを応援していきたいと思います。一緒になって生き生きする、ワクワクする西尾市をつくっていきたいと思います。

本日は、本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

総合政策部長／西尾　隆治

以上をもちまして、西尾市学生議会を終了したいと思います。

皆さま、大変お疲れ様でした。

閉会